

# たかやま

令和7年度 第9号

発行日：R8.1.19

発行元：高山小学校

文責：校長 東 忠孝

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

今年はずっと。活力・前進・飛躍・成功を意味する縁起の良い干支です。

馬は本来、常に前進する動物であり、後ろを振り返らずに前へと進むその姿は、夢に向かって突き進む人の象徴でもあります。私たちも自分の夢に向かって突き進んでいく年にしていきたいと思っています。

## 三学期のスタートにあたり

年度末は比較的穏やかな天候で、大掃除もはかどったのではないのでしょうか。年明けは予想外の降雪と地震に見舞われ、予定が変わったご家庭もあったのではないかと思います。改めて災害への備えについて考えさせられました。

二学期の終業式で「節目」の大切さについて話をし、元日という大きな節目に「次の目標設定をする」という宿題をだしました。始業式では、全員にミニボードにそれを書いてもらいました。宿題を全員が提出でき、いいスタートになりました。そして、次のことを話しました。

一学期の始業式に、一年間の目標として「みんな大好き高山小学校」と言えるように、苦手なことにも挑戦したり、周りの人に優しくしたり、自然を大切にしたりする力をつけ、あきらめずに努力することをがんばってほしいという話をしました。九カ月、四分の三が終わりました。残り三カ月、目標達成に向けて努力してほしいと思います。

そのために、意識してほしいことがあります。それは、「小さな変化や成長を、大切に積み重ねる」ということです。

人は一日で劇的に変わることはできません。大きく成長するためには、最短で最善の方法は、小さな変化をこつこつ積み重ねていくことです。そして、それを、たくさん仲間と一緒にやっていくことで、さらに大きな成長につながります。今学期も自分を輝かせていきましょう。

## 新春 書初め展

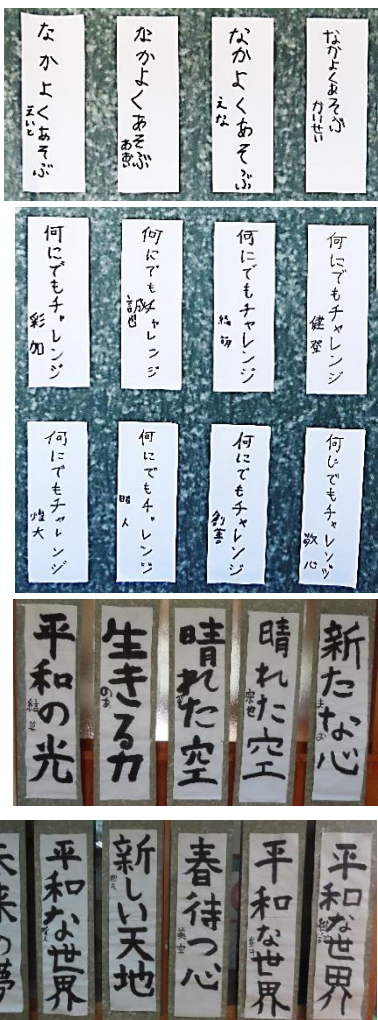
二学期の書初め練習会や冬休みの課題として取り組んできた作品は、書初め展に出品したり校内に掲示したりしています。今月二十二日まで展示しておりますので、ご都合に合わせて、見に来ていただければと思います。

【一年生】

【二年生】

【四年生】

【五、六年生】



【三年生】



## 入賞 おめでとう

(敬称略)

◇第四十七回みどりを守る作文コンクール

【銀賞】

三年 平 祐那

◇「ふるさと」そして「未来」作文コンクール

【難波利三賞(最優秀賞)】

六年 日向 心優



## 三学期もやる気まんまんです!!

寒くなり、天気も悪い日が多く、運動不足になりがちですが、そうならないように今学期も「やる気まんまんタイム」でしっかりと体を動かします。インフルエンザ等の感染症が心配な季節です。体力のバリアでウィルスをはね返しましょう。



## ありがとうございました

◇大田市更生保護女性会より

「二分の一人」のお祝いとして、四年生にメッセージと手作りのフクロウのマスコットを頂きました。様々な方々から見守られていることに感謝しながら大切にしていきたいと思います。



「ふるさと」として「未来」作文コンクールで難波利三賞に選ばれた日向心優さんの作文を紹介します。自分の住む地域を大切に思う気持ちが伝わってきます。

## ふるさとを元気づけたい

私が住んでいる大代という町には、伝統芸能が二つあります。それは、小笠原流田上囃子と石見神楽です。大代町は古い町並みが特ちょう的な、人口二百八十人に満たない小さな町です。静かな町ですが、地域でのイベントがあるとたくさんの方が集まり、とてもにぎやかになります。また、人気のおそば屋さ

んがあり、そこからは、標高八百メートルの大江高山が見られます。地域の人も温かくて、とてもすてきな町です。伝統芸能である石見神楽は、私にとつて、こわく感じていたものでした。しかし、今年の四月にあった例大祭での出来事です。少し神楽を見てみようと思ひ、神社に行きました。すると、カッコいい舞や奏楽のリズムに心がひかれ、それが神楽を好きになるきっかけになりました。そして、ある日母に、「私も神楽をしたい。」と伝えました。そして、大江高山神楽社中に兄弟といっしょに入団しました。家族からは、「まさか神楽を好きになるとは思わなかった。とおどろかれました。例大祭を見てから、私には目標ができました。それは、恵比須を舞うことです。おもしろく舞っていたり、みんなを笑顔にしていたりしたのが印象的だったからです。

しかし、このすてきな大代町には、ずっとなくならない問題があります。それは、人口が減少し続けていることです。昔は町が栄えており、十七夜には出店がたくさん出たり、田植え囃子を見たりしたと聞きました。大家には、病院スパー、信用金庫、髪屋などたくさんのお店が並んでいたと聞きました。ですが、今では空き家が多く、少しさみしく感じます。また、子どもが減り、高齢者が増える少子高齢化が進んでいます。この問題を解決するのは難しいですが高齢者が多いからこそ、元気な町であってほしいです。だから私は、「自分のふるさとを元気づけたい。」という思いで恵比須を舞い、ふるさとの人たちを笑顔で元気にしたいと思いました。今では、神楽のことしか考えられないくらい神楽が大好きです。神楽を通して、自分のふるさとに対しての考え方が変わってきました。今後のふるさとのあり方や自分に何ができるかを考えていきたいと思っています。これからも伝統芸能を守り続けて、ふるさとを大切にしていきたいです。

ふるさとをはなれて暮らしている人も、ゆっくりとふるさとのすてきな風景を見てみませんか？そして、そのことをたくさんの人に伝えてみませんか？ふるさとが笑顔であふれるために、地域の人とのつながりを大切に、伝統芸能や町並みなどのふるさとにしかないものを地域のみんなで守り続け、笑顔が絶えない町にしていきたいです。